

「女性だけの問題」じゃない

不妊の半分男性にも原因

日本では、子どもを欲しいと希望する夫婦の十組に一组が不妊に悩んでいるとされる。少子化問題が深刻化する中、不妊や不妊治療に対する社会的な関心は高まっているが、不妊の原因のほぼ半分が男性側にあることは意外に知られていない。「不妊は女性の問題」という誤った認識は、女性側に過度の精神的、身体的負担を強いるばかりでなく、男性不妊の治療機会を逃すことにもつながりかねない。

世界保健機関(WHO)

によれば、不妊の原因が女性だけにあるケースは41%、男性だけは24%、男女双方にあるのは24%。つまり、全体の48%は男性側にも何らかの原因が存在する。

ところが、製薬企業のメルクセローノが今年六月、二十五〜四十四歳の不妊に悩む既婚の男女計約千人を対象に実施した意識調査では、このことを正しく理解している人

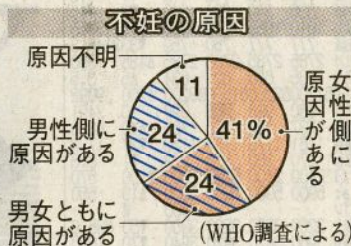
理解進まず 検査に消極的

は、男女ともたったの三割にすぎなかった。

調査結果によると、男性に原因がある割合を「40〜50%」と正しく答

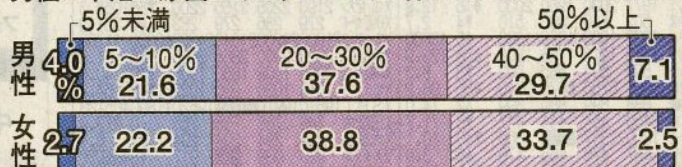
えた人は男性の30%、女性の34%。一方、男性も女性も四人に一人が「5%未満」「5〜10%」という、実際とかけ離れた数字を回答した。

不妊検査を受けたこと

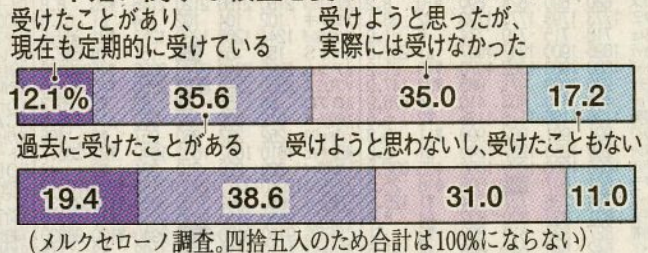


不妊に対する意識調査結果

男性に不妊の原因があるケースは、全体の何%ぐらいだと思うか



不妊に関する検査を受けたことがあるか



大きく分けて①精子の通り道が詰まっている閉塞性無精子症②精巣の精子を作る能力が低い非閉塞性無精子症③精子が少ない乏精子症④精子の運動性がない精子無力症などに分けられる。同病院では、不妊を訴えて受診した男性の十人中三人が、閉塞性または非閉塞性の無精子症だった。

「最終的に子どもを得られるかどうかは別の問題だが、治療法は80〜90%のケースに提示できる」と大橋部長。

例えは、無精子症に対しては、精巣の組織内に存在する精子を見つけて採取し、顕微鏡を使って卵子に注入、授精する。脳の視床下部や下垂体の機能低下で第二次性徴や精子形成に必要なホルモンがうまく分泌されない患者には、遺伝子組み換え技術で合成したホルモン製剤を投与する。

治療はいろいろ

荻窪病院泌尿器科の大橋正和部長によると、男性不妊の原因は多いが、

治療方法はいろいろある。男性もまずは検査を受け、不妊と正面から向き合うことが大切だ。